

自主的・自発的な実践を

上うえ廣ひろ榮えい治じ

暑い夏がまたやってきました。この季節になると思い出されるのが、やはりあの終戦当時の日々のことであり、あの日以来の日本人の来し方です。

今年の日英同盟案が元老会議で可決されてから、ちょうど百年目にあたります。そして翌年、日本は初めて欧米列強との対等な同盟を結んだのです。当時のイギリスはその繁栄に翳かげりが見えはじめたとはいえ、世界中に海軍の拠点と植民地を持つ文字通りの超大国。それが、近代国家を発足させてからわずか三十年そこそこの、大人と子どもほどもにも国力の違う弱小国と「対等」の同盟を結んだのです。当時のイギリスの堂々たる大人ぶりに感心させられる一事です。

かつてのイギリスでは、子どもに向かって「君は悪い子だ」というときに、「You are no better than you ought to be.」と言うのが普通だったと知って、感心したことがあります。

“you ought to be.”つまり「君のあるべき姿」に比べると、今の君にはよりよいところがない、そう言っているのです。たとえ子どもに対しても、「悪い」とか「善い」という大人の側の判断を一方的に押しつけない表現です。この言葉の裏には、子どもにも「自主的に」自分の「あるべき姿」を探し求める能

